

## 興居島（由良・泊）地区タウンミーティング

平成24年3月25日（日曜）

【市長】 皆さんこんにちは。今日タウンミーティング、日曜日で午後の開催でありますけども、皆さん大分かんきつのほうの収穫はピークは過ぎましたでしょうか。日曜日の午後ですのに、このようにお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。また、このタウンミーティングの開催をご快諾いただきました各町連絡協議会の山本会長さんをはじめ、由良地区、泊地区、各地区の役員の皆様方、ご協力をいただきましてありがとうございます。さて、このタウンミーティングですけれども、各松山市でいいますと公民館本館が41あります。いわば41地区に分かれるわけでありましてけれども、私が就任させていただいてから始めました。市役所職員にとってはちょっとしんどいことをしてみましようということです。というのが、市役所で皆さんがお越しになるのを待ってるほうが、どっちが楽かというのを待てるほうが楽ですよ。そうじゃなくて、我々のほうから出ていきましょう、それが本当の姿ではないでしょうか、ということで始めさせていただきました。松山市は各公民館本館でいいますと41地区に分かれますので、今回も、と思っていたんですけれども、興居島は学校でいいますと泊地区も由良地区も一つということで、共同でやっております。そして、民生児童委員の協議会も一つ、そして社会福祉協議会のほうも一つということで、これはあえて一つということでさせていただいて、島全体で魅力も認識していただく、課題も認識していただくのがよいのではないかなというふうに、今日は興居島全体でさせていただくことにいたしました。今回でタウンミーティング41地区と言いましたけれどもちょうど20番目の開催ということで、半分が来たわけでございます。そしてもう一つ、先ほど職員にとってはしんどいことと言いましたけれども、もう一つ特徴がこのタウンミーティングにはありまして、聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしない、というのがこの松山版のタウンミーティングでございます。ある意味、このタウンミーティングをして、聞いているふりやっけるふりをすると楽です。それはいたしません。この場でお答えをできることはこの場でお答えをもちろんさせていただく。そしてやはり財政的な問題があるもの、国が絡むもの、県が絡むもの、こういうものはすぐにお答えできないというものも

ありますので、持ち帰らせていただいて、検討させていただいて、大体1カ月を目安にお答えをさせていただくということにしております。聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないというのが、このタウンミーティングの特徴の一つでございます。さて、松山市の仕事は本当に広い範囲に及びます。タウンミーティングでは各担当の課長、部長が来ているわけでありまして、今日も来ておりますのでそれぞれ担当の仕事、自己紹介をいたします。

【市民部長】 皆さんこんにちは、市民部長の三好でございます、お世話になっております。このタウンミーティングの統括をしております。普段の仕事といたしましては、窓口サービスといたしまして、市民課とかパスポートセンター、消費生活センター、それから市民のサービスセンター、それと22支所7出張所、こういうことをやって窓口サービスをさせていただいております。あと地域におけるまちづくりとか男女共同参画とか人権啓発とか、そうした幅広い仕事を行っております。本日はよろしく願いいたします。

【企画政策課長】 皆さんこんにちは、企画政策課長の大野と申します。私どもが所属する総合政策部というところなんですけれども、市全体の調整であったり、島しょ部の振興、それから国際交流であったりスポーツ振興なんかを担当しております。本日はどうかよろしく願いいたします。

【産業政策課長】 皆さんこんにちは、産業経済部産業政策課の中西と申します。産業経済部では、農林水産漁業の振興、地域経済、雇用の対策、それと観光産業振興の仕事を行っております。どうぞよろしく願いいたします。

【保健福祉政策課長】 皆様こんにちは、保健福祉政策課大濱でございます。保健福祉全般を担当しております。本日はよろしく願いいたします。

【生涯学習政策課】 皆さんこんにちは、教育委員会生涯学習政策課の青木と申します。教育委員会ではですね、学校教育とか、あるいは公民館、文化財、そういった社会教育的な分野を担当しております。どうぞよろしく願いいたします。

【消防局総務課長】 みなさんこんにちは、消防局総務課の岡本でございます。消防、救急、そして地域防災担当しております。本日はよろしく願いいたします。

【市長】 という6人でございます。実は春は別れと出会いの季節でありますけれども、今年の暦でいいますと3月30日が金曜日で役所としては最後の日、年

度としては最後の日でありますけれども、私は退職する部長、企画官、課長たちにも税金をいただいております。先ほど最後から2番目に自己紹介をいたしました青木課長もですね、3月30日金曜日で定年退職ということになりますけれども、最後まで走り続けてくれております。今日も若いもんが行つとけやというのではなくて、最後まで来てくれているのはありがたいなと思っております。さて90分でございますので、さすがに肩ひじ張っているとちょっと疲れてきますので、ざっくばらんにやっていただいたらと思います。また、先ほどちょっと申しましたけれども、魅力と課題と申し上げたんですけれども、なぜ魅力を皆さんにお話をさせていただくかと申しますと、これは松山市の各地区それぞれに歴史があつて特徴がありますよね。誰がその地区の魅力を一番知っているかというところ、それは行政でしょうか、いえ違います。それはそこに住んでいる皆さんが一番魅力を知ってます。その魅力を活かしたまちづくりができるといいですよ。それぞれの地区が輝くことになる。それぞれの地区が輝くとその41の集まりである松山はもっと輝くということになります。ですので皆さんに、その地区に住んでる皆さんに胸を張っていただきたい、魅力について認識をしていただきたいということで、まず魅力について皆さんに語り合つていただこうと。そして問題点なんかもいろいろあろうかと思つたので、あとはまた課題などについて教えていただいたらと思います。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【男性】 本日はまず興居島の魅力を語る前に、まず野志市長さん始め市行政の幹部の皆様方にはご多忙のところ、また休日というところ興居島のタウンミーティングをやるという機会をつくつていただきまして誠にありがとうございます。早速ですが、興居島の魅力といたしましても、興居島に長年住んでる人間にとっては自分の故郷の魅力というのは案外知つてるようで知らない。私は40年間ここを留守にしておりまして40年振りに帰つてきた人間なんです、あらためて見ると、海を隔てております。ハンディというものもあるんですが、海を隔てているという何かいいものがある。そしてなかつ松山市役所に近い。45分で行けるとこ。地理的とか気候的環境に恵まれておるのでしょう、果物が非常においしい。かんきつをはじめとしてそういう産地としても知られておる。最近は若干少なくなつてきたんですが、島の周り流れが早いものですから、非常に水

産物おいしい。それから、船踊りとか島四国とか島にずっと昔から伝わる伝統芸能文化がいまだに根付いておる。島からの周りを見渡す景観がなかなか捨てたもんじゃない。ばくつと言いますとこんなもんですが、あとは詳しく皆さんからの発表があると思うんですけど、こういうところがあります。我々としても、島の活性化に非常に苦慮しております、今のこの状態を何とか抜けないかなというところで試行錯誤しておる段階であります。ぜひ、市の行政の皆様方に、大いにけつを叩いていただけたら、けつ叩かんと我々もなかなか動きにくいところもあります、現実には。本日は、60名足らずの人間が集まってきたわけですが、先ほど市長さんがやりっぱなし、聞きっぱなしにはせんよというお話しでした。多分我々から出す課題やらお願いやら要望やというやつは、駄々っ子のお願いかもわからん、従って、駄々っ子のお願いというのは将来を見据えた島の活性化にすべてつながるといような意気込みで、真摯に聞いていただけたら幸いかなと思います。ご出席の皆様方にもお願いをいたします。活発に、この優しい市長さんに、お願いを、要望を、質問をどんどん投げかけていただいて、よりよい興居島づくりができれば、出発になったらいとこのように思います。また、本日は最後になりましたけど、泊地区の皆さん、会場設営等準備をしていただきましてありがとうございます。活発なるミーティングを期待しております。よろしくお願いいいたします。

【男性】 私はテーマ2で発言をしようと思ったんですが、お話が続いてないのでテーマ1について。私は一昨年から昨年にかけて怪我をして4カ月入院しとったんです。退屈でたまらんもんだから、「羊が1匹、羊が2匹」言うても眠れない。どなんしたら眠れるかなと。死んだ人数えたら固有名詞やから眠れる。それで由良の一区から亡くなった人を順に名前を言いながら指を折って、そしたら私が退職して20年間余りですが、その間に100人亡くなってます。生まれた話はありません。由良小学校、泊小学校とも廃校になりました。由良小学校600人を超え、泊小学校350人から400人も児童数がおった学校です。それが、人口、少子高齢、そういうふうになっていってしまいました。だから、魅力について語れと言うたら大雑把になります。おいしい果物が食べれます。おいしい魚介類が、海の幸が食べれます。これは最大の魅力であります。けれども、テーマ2にも出ておりますが、定住が促進されていない。もう人口減です。昭和2

1年に6,000人の人口があった島が今や1,500人を切ろうとしております。これは先ほど興居島は不便でないんだ、交通便利だと言われましたけれども勤める人にとってはやはり海を渡ることは一つのあい路になっております。そこらあたり魅力、それからアンチ魅力取り混ぜてちょっと申しました。

【市長】 はい、私から。皆様の顔を拝見しながらお話をしたいのでちょっと立ってしゃべらせていただきます。職員は手元の数字があるものですからちょっと座ってになろうかと思いますがご了解下さい。興居島は、まず皆さんに申し上げたいのが松山市各地、特に山間部とか沿岸部に行きますとよく言われるんですけど、「うちのまちは大したことないわい、何も無いわい」っておっしゃるんですけど、これはあまりいい方向じゃないと思います。やっぱり人は同じところに住んでると自分のまちを過小評価してしまうんですね。そうじゃないと思うんです。やっぱり大事なものはさっきも言ったように地区の皆さんが一番おわかりであって、松山市41地区、行政主体でまちづくりやったらどこも同じような金太郎あめみたいな地区ができてしまうんですね。そうじゃなくて地区の魅力を出すこと。私が考えてみたらですね、大事なものはなくなって初めてわかるものだと思いますが、日頃ごろから宝物がいっぱいなんだというのを皆さんに意識してもらうことが大事。例えば、こんな自然の中で季節の移ろいを感じながら生きれるっていうのは素晴らしいことだと思いますよ。「ミカンの花が咲いたな、何の花が咲いたな」そんなこと都会だったらもうできません。その自然の中で季節の移ろいを感じながら生活できる。そして私、前の仕事は、常に締切に追われるような日々ですね。皆さんどうでしょうか、締切に追われるような生活でしょうか。嫌な上司にも毎日会わないかんとかいうような生活でしょうか。満員電車で揺られてしんどいなと思って1時間とか1時間半かけて通うような日々でしょうか。排気ガス嫌やなって思うような日々でしょうか。結構島涼しいですよ、夏も。熱中症にやられちゃう毎日でしょうか。結構コミュニティがあると思います。私は実家北条、どっちかっていうと田舎のほうですけども、やっぱりつながりがありますよね。今都会では孤独、孤独って言われますけれども、孤独とか、個人とか「弧」「個」が目立つような世の中ですけども、結構コミュニティがあって寂しさにもあまりあわないんじゃないかなと思います。先ほどおっしゃったように、うまいもの、興居島いうたら釜揚げのちりめんなんかおいしいと思います。そして、本当に採

れたてのミカン、みずみずしいのを食べられるのは本当に幸せなことだと思います。例えば松山に来た有名人の方って結構松山のこと気に入られます。「何でこんなに食べ物おいしいんですか」って言ったのが、今テニスで有名なクルム伊達公子さん。この間国内の男子テニスのトッププロの添田豪さんも松山のこととても気に入って帰られました。食べ物、人柄、あとフェリーで10分15分っていうのもいいと思いますよ。これまたもっとかかるところもありますから。物事はやっぱり基準をどこに置くかだと思います。どこで満足をするのか。そして欠航もあんまりはないと思います。フェリーの欠航ですね。はい、またこれからは歩く、歩いて健康になりましょうって大事だと思いますけれども島四国があるのも宝だと思います。今挙げただけでもたくさんだと思いますので、やっぱり皆さんは自分のまちのことを過小評価していただきたくない。しっかり魅力をとらえることによっていいまちづくりができると思いますので興居島は魅力いっぱいのところだと思います。じゃ、課題にいきますかね。

【男性】 島の活性化で定住促進とあるんですけど、活性化するには二通りあって、定住促進、こちらに定住してもらうか、あるいはは島内へ足を運んでもらうかどっちかだろうと思うんです。定住促進が一番いいんですけど、例えば島で昨年、一昨年と船踊りイベントを行ったんですけど、この何か活性化して人に来てもらうためのイベントを行うにしても、費用がなかなか島内で捻出できないんですね。やはり人に来てもらおうかというイベントになると、結構大きなイベントしないと、今はかなりいろいろなところでイベントがあるので足運んでもらえないということで、そういうイベントを行う場合の助成金、市のほうにお願いできたらと思っております。

【市長】 はい、船踊りのことについて私から。船踊りは私見たいな、見たいなと思ってまだ見られてないんですけど、確か10月の第1土曜日だったですかね。今あれは由良と泊で2つ団体があるんですかね。

【男性】 交互。

【市長】 交互でやってらっしゃる、年ごとに。なるほどなるほど。青木課長毎年あれどれぐらいですかね。

【生涯学習政策課長】 一応、民族芸能の保存伝承とか後継者の育成ということで運営補助金をいろんな団体に出させてもらってんですけども、小富士文化保存

会に今現在8万円出させていただいております。これほかにも、例えば伊予源之丞とか、あるいは虎舞とか、そういったとこと同じような形にはなりますけれど、運営補助金を出させていただいております。

【市長】 はい、青木課長の今の話だったら、もうちょっと上げてもらったらという感じですかね。

【男性】 確かに今まで伝統文化として船踊りがあるんですけど、もっと大々的なとてつもないことを考えたりもしてるんですけど、船の上に、船踊りの台船を浮かべて、そこでロックコンサートのような海上フェスティバルのような、夢みtainなこと思ったんですが、人がかなり来るだろうなんて思ったりしてるんですけど、それには莫大な費用がかかるだろう、その出演者もある程度名前が売れてないと来ないだろう、そんなことを思ったりも夢みtainに思ったりしてるんですけど、そうすると相当な費用がかかるだろう、それは興居島のほうでは捻出できんだろうなと思ってます。

【市長】 まず船踊りはとてもいいものだと思いますので、ぜひとも続けていただきたいと思います。補助金のことについては一たん持ち帰らせてください。1カ月をめぐりに必ずお返事をさせていただきたいと思いますが、今、とてつもないことって言われたのがキーワードだと思うんですよ。まちづくりでよく言われるのがよそ者、若者、ばか者って言うんです。これわかりやすいキーワードでよそ者、ほかから来た人の発想。今まで思いもつかなかったような発想、よそ者。で、若者の発想、そしてばか者っていうのは比喩的表現ですけども、突拍子もないような表現でばか者って言うんですけども、とてつもない発想がいいんですよ。こんなもんちょっとできんかな、おかしいかなと思っても、言われることが大事で共感してもらって、「お、おもしろいな」って動き出すとまた違ってきますのでとてつもないことがいいと思います。成功の秘訣は、やっぱり伝統に裏打ちされたものがいいと思います。興居島だったら船踊りとか、もともとあるミカンとか、やっぱりぽっと出じゃなくて、何か興居島とつながりのあるものでやっていると、結構成功していくんじゃないかなと思っています。

【男性】 先ほどの関連ですけども、今助成金として小富士のほうに8万ということでございましたけれども、船踊りの場合は、船じゃなしにお宮でやりますよね。その場合には泊と両方出ますのでね、それは2団体おるということを頭に入

れた予算を考えていただいたら、このように思います。

【市長】 これがですね、確か北条がそのケースなんですよね。青木課長いいですか。

【生涯学習政策課長】 確かにそれぞれの団体に出せばいいんですけども、一応船踊りを含めたそういった保存団体につきまして支援する民族芸能に対して一団体に限定させていただいております。北条の場合に、伊予万歳というのがあります、無形民俗文化財。これ下難波アヤメ会と別府双葉会という二つの保存団体があるんですけど、その連合会である北条郷土芸能伊予万歳保存会に出させていただいてる、補助を行っているというのが現状でございます。これも一緒に補助申請をしていただいてもいいんですけども、二団体分は出なくて、どうしても一つにならざるを得ないということがありますのでご理解いただけるかと思えます。

【市長】 経緯も何も知らずに申し上げますけれど、例えば泊と由良で一つの会をつくっていただいとというのは難しいですかね。経緯も何も知らずにちょっと言ってるんですけど。ちょっとこれ持ち帰りさせていただいて検討ということにさせて下さい。よろしく願いいたします。

【男性】 実は今年の夏あたりから、興居島地区におきましてもイノシシが出没するうわさを聞きます。皆さんご存知のように中島のほうでは今甚大な被害が出ておるようです。僕らも対岸の火事ぐらいにしか考えてなかったんですけども、実際被害に遭った園地等々見に行ってみまして、また自分とこの畑でも冬場ミカン食べられてました。そんなのを目の当たりにすると正直対岸の火事じゃない、こりゃ大変なことやということでも新聞等々でも、その被害の深刻さなりを中島の友人たちに聞いても大変いうことを聞いております。今現在、泊、鷺ヶ巣、由良、門田地区を含めまして、先日も興居島地区有害鳥獣害対策会を設立しました。ご存知のように興居島は今、松山市農協、えひめ中央農協という二つの組織が入ってますけども、そういった組織の垣根を越えて同じ価値観のもと興居島全体で島をあげて本当に挙島一致でイノシシ対策に真剣に取り組もうというところがあります。でも実際問題イノシシの被害がどんなんかということすらも正直わかりません。中島からお越しいただいて話を聞いてみますとやっぱり初期、初動が大事だということをお聞きしました。松山市農協のホームページとか中島のタウンミーテ



イングの話を見て、有害鳥獣被害防止対策協議会を設置するということを見ました。行政の業者団体、猟友会、あと農業者を構成員に会を設立するという動きみたいですが、早急にそういった会を発足していただいて、危機管理マニュアルじゃないですけど、そういった初期、初動、イノシシ以外が出る前に本当にそういった中島の話の教訓にして、興居島でイノシシ出さないようにしたいと思っております。ですから早急に一緒にそういった僕らの会にも行政もどんどん参加していただいて連携していきたいと思っておりますのでご協力お願いしたらと思います。

【市長】 はい、わかりました。これは産業政策課長のほうから。

【産業政策課長】 産業政策課です。まず最後に言われました有害鳥獣被害防止対策協議会、これ去年の3月に既に立ち上げております。関係者の方と対策について今協議をしております。それとイノシシの被害ですが、実は中島もご存知のように昔はイノシシは島ですからいなかったんですが、今もうかなりの被害が出て、中島だけで23年の1月、約140頭のイノシシを捕獲をしたということです。全市的には、今現在で700頭、23年の4月から今までで約700頭。去年500頭でしたので200頭増えている。年々確かに、地域によってはかなり増えております。そのために松山市としてもいろんな形で予算を対処しております。イノシシを捕獲するための報償費もどんどん増やさせていただいておりますし、対策としていろんな施設、電気柵等金網、そういったものの設置の費用。それとか昨年からですけれど捕獲をするための猟友会の方、高年齢化されてなかなかやっぱり人がいないということで、免許の取得に対しても補助を出しております。また詳しくは、農林水産課でお話をいただければ、また個々にご協議をさせていただけると思いますのでどうぞよろしく願いたします。

【市長】 はい、私からちょっと補足をさせていただいて。イノシシがたまらないというのは、私の家も北条ですから、実家があってミカンもあります。青い実のときは食べない、おいしく実ってから食べるんですね。これがまた腹が立つところです。中島にタウンミーティングで行ったときも市長何とかして下さいやよく言われております。興居島にもその被害が広がらないようにと思っております。皆様をお願いをしたいのは、できればやぶなどがありますとイノシシの逃げ場、隠れ場所になりますので、できればそのやぶなどがあれば取り除いていただくほうがいいと思っております。先ほど産業政策課長申し上げましたが、今23年度です。

21年度が257頭で、今1月末で702頭なんで一昨年からいうと3倍くらい捕獲してるんですけども、やはりイノシシは1回でだいぶ産みますからその分なかなか大変であると。イノシシは今1頭につき2万円、そしてサルについては1頭につき3万円というふうに報償費を出しております。今までは個人単位で柵を設置したときに補助が出せますよってことになってたんですけど、共同で設置していただくようになるとなお広がりますので共同で設置していただいた場合でも補助が出るとか、先ほどの狩猟免許のこととか松山市としてはできる限りのことはしておりますので、もう思いは一緒だと思います。できるだけこういう被害が広がらないようにと思っておりますので。そのようなところですかね、はい。また一緒になってやっていきたいと思っております。お願いします。

【男性】 旧由良小学校跡地、旧泊小学校跡地の問題についてですが、泊の場合には何かアンテナショップの話が進んでいるということを知っております。これは興居島の活性化のためには非常にいい話だと思いますので、ぜひ進めていってほしいと思います。それから由良小学校跡地については現在介護福祉施設の公募で何か進展があったように聞いております。ところが、何か問題があってその先一步進めないということも聞いております。そこのあたりどういう問題があるのか、ひとつ説明できたらお願いしたいと思うんですが、よろしくお願いします。

【市長】 はい、わかりました。これ泊の小学校の跡地、そして由良の小学校の跡地ともに動きがありますのでこれは大野企画政策課長。

【企画政策課長】 まず泊小学校ですけど、私ども小学校の跡地は、民間のほうからご提案いただいて、島の活性化につながるのに対して、そこにお貸して島の活性化にしてくださいということで進めてるんですが、泊につきましてはカフェとか島の産物を利用した加工を考えていくということで現実進めてるところですが、これまだ詳細を今詰める段階で夏ごろということで進めるようです。それから由良小学校につきましては小規模特別養護老人ホームとか、短期入所生活介護施設ということで、これにつきましても地域の活性化につながっていくということでまた地域の人の雇用にもつながっていくということもありまして、私どもが所管してる委員会のほうではオーケーになっているんです。ただ、これにつきましては当然福祉の施設になりますので福祉の施設のほうの許可っていいですか、そういうところの委員会がありましてそちらの許可が必要になってきま

す。その辺の絡みが福祉のほうも参っておりますのでご説明させていただきたいと思ひます。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課です。この由良小学校の跡地利用について今現在社会福祉法人から由良小学校跡地を利用した特別養護老人ホームの地域密着型の施設の運営をしたいというお話が昨年度ございまして、私ども松山市全体の特別養護老人ホームの地域密着型という形の施設を検討してまいりました。この検討にあたりましては、まずは松山市内のこういった施設が少ないところ、あるいははないところをまず地区にあげまして、民間の方の施設のご提案内容を審査する中で検討をして参っております。こういった中で由良小学校跡地を利用したご提案の中で、こういった施設に一番重要であろうという見守り介護であるとか高齢者をお預かりをして快適にお過ごしいただく、また、医療との関係も連携を図るといふ内容の検討をしてまいりましたけれども、昨年度はそういったご提案で、ただこれもほかの地区もご提案がいろいろありまして、すべての地区にご提案があった内容すべてオーケーですよ、いいですよといふ話もできませんので、昨年度は一施設を許可をしております。これは国の補助金を活用するものですから、その施設の数も決められておりまして今年度また検討に入りたいと思っておりますが、昨年度の経緯はそういった形で由良小学校の跡地についてはお受けできなかったといふことが経緯です。よろしくお願ひをいたします。

【市長】 わかりにくくなかったですか。大丈夫ですか。はい、大丈夫ですか、はい。

【男性】 松山市には興居島の果樹振興に対しましてご助言なり補助をいただいておりますとありがとうございまして。ご案内のようにこの果樹産地は島しょ部という特徴を活かしながら新しい品種等を取り組んでおります。これ行政の関係で補助金もずっと続くわけじゃないといふのは理解はしとるんですが、今まだやっておりますが、まだ新しい、施設化とかそういう部分はもう少し延ばしていただくことによつてもっと振興ができるんじゃないかといふことなんで、話に聞きますと来年度ある程度終了といふような話も聞いておりますから、継続のご検討をいただきたいといふことと、もう1点、興居島は景観が非常によいといふことでわかっとなんですが、廃園が非常に多くなつてきております。廃園の多いところが景観も壊し、またイノシシの巣になることもありますので、これは当

然自助努力としてやらないきませんが、高齢化の中で、やっぱりそういう面に対しての補助をいただければ、一石二鳥とは言いませんがいろんな面でプラスになる感じがしますので、その辺のご検討をお願いしたいと思っております。

【市長】 はい、わかりました。私から果樹の振興について述べさせていただいて、廃園のことはよろしくお願ひします。まず、うちもミカン、伊予カンやりますからわかるんですけど、ミカン伊予カン、平成13年といいますと、温州ミカン、伊予カンが95パーセントでいわゆる有望品種が5パーセントでした。だいたい有望品種というのが増えてまいりまして、平成21年度のデータでいいますと、ミカン伊予カンが76パーセントと有望品種が24パーセント、4分の3と4分の1くらいまで変わってきました。で、農業経営を安定させる適正な品種構成が愛媛県のほうで出てまして、これがミカン伊予カンが65パーセント、有望品種が35パーセントですから、これまだ有望品種が伸ばせるな、伸ばしていきたいなと思っております。大きく二つのやり方があると思うんですけど、安い値段だけれど大量につくるというやり方と、高品質なものをつくるというやり方、このどちらかになると思います。今の方向からするとやはり消費者からおいしい、これはうまいな、皆さんの手間かけたのが報われる値段で売れるというのが今の方向性じゃないかなと思っております。私も東京の大田市場、青果で日本一の取扱量がある大田市場に、朝6時から競りが始まりますんで5時半くらいにはホテル出発して行っとかないといけないんですけど、私結構行くの好きで今までに1年に3回行かしていただきましたけど、やっぱり競り人さんたちは厳しいです。まず、市長がどんだけ知識知つとるのか聞いてきます、「市長、この品種やけど何と何の掛け合わせ」って来るんですよ、もちろん準備していきますから、しっかりと答えてきます。私、必ず生産現場に足を運んでからトップセールスをすることにしてます。それは私、現地現場を大切にしたいんです。現場だからわかる苦労とか工夫とかありますよね。カラマンダリンはどうやってしてできたものかとかそういったのを伝えると競り人さんたちはそれをわかってくれて、苦労にふさわしい値段をつけてくれるんです、これシビアですよ。「市長、品質にばらつきないの」これよく言われます。最近は選果機をかけること多いですから、「これは選果機かけてますから品質にばらつきありません」とかいうと、なるほどねとかなるんですけども、やっぱり競り人さんたちはかなり厳しいと思っております。

す。これからも例えば防鳥ネット、鳥を防ぐネットがいるのであればそれに対して補助をさせていただくとか、ハウスでつくれるというのは大きいと思いますので、そういう補助をさせていただくとか、あとできればと思っているのが、梅本に農業指導センターがあります。今回人事異動、組織改革がありまして、もっともっと、ただ技術的に磨くのではなくて、販路の拡大までやれるように組織改正したんですけども、今、だいぶ広がってきたものと、できればアボカド、今、松山は日本一です。量でいうと、アボカドもこれ今リードしてますからできればもっともっと広げていきたい。ライムがかんきつですからやりやすいと思いますけど、そんなに場所は選ばないそうです。ライムも今のところ日本一ですからこれも広げていきたい。ブルーベリーも日本で5本の指くらいに松山市入るんだそうです、ブルーベリー軽くていいですよ、農業するには。ですからこのブルーベリーも広げていきたいと思っています。とにかく農業されている方が夢と希望をもって、しんどい仕事してるんですから、夢や希望もってできる体制にしていきたいと思っていますので、これからもバックアップをしていきたいと思っています。廃園のことについてはお願いします。

【産業政策課長】 産業政策課です。廃園すなわち耕作放棄地的なもの、今の農業取り巻く環境というのが担い手不足ということでどんどん放棄地が進んでおりまして、統計上松山市の農地の面積約9,000ヘクタールあるんですが、そのうち約9パーセントに当たる800ヘクタールが耕作放棄地となっているようです。それは先ほども言いましたような状況でどんどん進んでいるということです。これに対して松山市として、今市長も申しましたが、いろいろな形で対策っております。例えば有望品種、高収益の上がる有望品種への補助もやっておりますし、松山ブランドということで紅まどんなをはじめいろいろな指定をして販路拡大もしております。それと国のほうでもお聞きになったことがあるかと思いますが、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金事業とか中山間地域等直接支払制度といったもの、既にご活用していただいていると思いますけど、そういったものを活用して耕作放棄地防止というのを今後も松山市としても取り組んでいきたいと思っていますので、また、一緒にご協力できるところにつきましてはご協力をしていただき、支援できるところは最大限支援していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。

【市長】 確かセカンドハウスをつくる場合には山林だったらやりやすかったんですかね。

【産業政策課長】 セカンドハウスの建設とかといいますと、興居島は全部農振農用で指定されているんじゃないかと思います、ですから農地法とか農振法とかの絡みで、これをまず解除しないと、セカンドハウスなかなかつけれない。だめだというわけではないんですけど、そここのところ法的なクリアをしないとイケませんので、農林水産課とか所管をしております農業委員会とまた相談させていただきたいと思います。

【男性】 今の園地を、今言われるような事業でもういっぺん戻すのは難しい園地もあるわけです。単純に伐採をするだけの部分での補助金とか対策というのは今のところないということですよ。

【産業政策課長】 伐採に対する直接の補助はないですね。

【男性】 それをまた検討できないかということと、今の施設化の話をする、継続してそういう支援をしていただけるという理解でよろしいんですか。防鳥ネットとかについては24年度で打ち切りということではないんですね。

【産業政策課長】 はい、ないです。

【市長】 ごめんなさい、私の認識間違いかもしれないんですけど、廃園を新たに農業をしたいという方に渡すという場合には、その動きに対して補助があるんじゃないかなかったです。

【産業政策課長】 補助は今のところ私も把握してないですけど、農地を農地として使うのであれば農地法上問題ありません。ただ、今言ったような補助は具体的にどういったものがあるかについては、持ち帰りまして調べさせていただきます。

【市長】 ごめんなさい、詰めますけど中西課長かな、これ、「耕作放棄地再生利用緊急対策交付金」でしたっけ、あれは当てはまるんでしたっけ。

【産業政策課長】 これも具体的には細かい話で、例えば農園を市民農園とかいう形で一般の市民の方が使うということについては、農地を農地として使うわけですから、農業以外の方であってもそういう使い方はできるんです。いろいろとここも制限がありますので、個々具体的にこちらとしても検討させていただいてご相談させていただきたいと思います。

【市長】 私から一つ。皆さん農地法ってなんであるんじゃないかと思われるかもしれません。なんか縛られてめんどいなと思われるかもしれないんですけど、いろいろと話を聞きますのに、国でいうと食料の自給率がまだまだ低い、カロリーベースでいいますと日本の食料自給率は40パーセントです、ほかの国にあっては100パーセント超えてるところもある。100パーセント超えてるってことは輸出してますっていうことなんですけど、やっぱり国のあり方として食料自給率が40パーセントだと、いざというときに食料どうするんだといった考え方があるんで、農地法をつくって農地は農地としてという考え方がある。それが時代に合ってるかというのも考えなきゃいけないと思います。先ほどのことについては持ち帰らせていただいてお返事をさせていただきます。

【男性】 先日2月15日の広報まつやまの「かつひトーク」を拝見しました。主題は「瀬戸内・松山」構想の推進でございました。産業、観光でつないでいく。これ私は大賛成でいいなと思います。そこで、観光資源といいますと松山は城山、坂の上の雲、子規博、道後温泉とたくさんあります。よそに引けをとらないと思います。しかし、瀬戸内広島から松山へつないでいきますと高浜、松山観光港が玄関、そうしますと興居島はさしずめ玄関前の植え込みであろうかと思えます。それが今市長さん農地法のお話もございました、年をとって後継者がいなくて廃園にならざるを得ない、それが多いのです。その場合に廃園になったら農地法が足かせで何ともならない、近よってみるとずいぶんひどい植生です。私マレーシアの荒れ地を歩いてみたことがありますがああたりに割と単純、ところが興居島はイバラから始まってきわめて多様な植生で荒れに荒れているという感じなんです。松山の玄関の前の植え込みをこのまま自然に返していくという市の政策か、あるいは何とか形を整えていこうという計画をもっていच्छやるのかそのあたりお伺いしたいと思います。

【企画政策課長】 島しょ部をこれから何とか活性化していこうということで、市長の号令のもとで愛ランド里島構想を今策定しております。この愛ランド里島構想といいますのはまず、島に住んでいる方々が元気になっていただきたい。それからもう一つは島が元気になるためにはよそからいろんな人に島の魅力を知ってもらって、島に多くの人に来てもらって島の魅力を知ってもらおうとそういった2つのことを考えて、愛ランド里島構想を今年度策定いたしました。これは

あくまでも考え方の話でありまして、現実事業的な話は24年度から市全部の課を挙げまして、構想に基づいてやっていこうとしてるんですけど、まず、島に元気になっていただきたいということで、まず、島に住む方々のために船の補助であったり、島の核になっていく人をつくっていかなくてはいけないということで研修の費用も予算つけてやっております。それから定住も増やしていこうということで、今考えておりますのが農園の体験施設みたいなのを将来的に考えていくということで、全国から人が来てくれないといけませんので、ニーズ調査をやってその結果を見て、農園の体験施設なんかも興居島だけじゃなくていろんな島ありますので、人口がどんどん減っていておりますので、そういうところに対して何とか定住も増やしていこうということで今市の全部局挙げて一生懸命取り組んでいるところです。市長が島のことを本当に思いまして全部局挙げてやっていったということでありまして、完成次第そのあたりは発表させていただきたいと思います。

【市長】 私が就任させていただいて島のことというとなんで愛ランド里島構想って言ってるんですね。愛ランドの愛ってふつう片仮名で書きますけれど、愛ランドの愛は愛するの愛を書いてくださって言ってます。これは島の中の人も島の外の人も、島のことを好きになってもらえるように愛ランドの愛は愛するの愛。そして里島は離れた島とは書きません、ふるさとの里の島と書きます。これは私は以前の仕事でも思ってたんですけども、やっぱり島っていい自然があって波の音があってそして海に沈む夕日、皆さんそれぞれにふるさとお持ちだと思いますけど、ここに住む人もほかから来た人もふるさとを感じられる島なんじゃないかなと思って、やっぱりプラス思考が大事です、ということで愛ランド里島構想を掲げさせていただいております。これは皆さんに胸を張っていただきたいんですが、さっきのトップセールスで、この間北海道の札幌に2月、また寒いときに札幌に行ってまいりました。なぜかというとなんで北海道の札幌はですね、愛媛の松山の物産展するとよく売れるんです。2月の終わりごろに行くと、ちょうど向こうの人は春がやってきたイメージで、もう何年もやってるんですけど、よく売れるんです。ですのでそこ行ってきたんですけど、北海道大学には大学院があって観光学をやっている先生がいるんですね。その先生とちょっとだけ接点ができましたんで、何とか会わせてもらえませんか行って来ました。興居島と中島の話もしてみ



ました。日本を代表するようなその先生が言ってたのは、この興居島は団塊の世代が、団塊の世代っていうのは都会で仕事してますけどももともとは田舎の出身です、田舎に住みたい、退職したら田舎でゆっくりしたい、農業でもしもって、釣りでもしもってっていう気持ちがあるんですよね。でも船で10分くらいだといきなり本格的には始められなくても、松山まで船で10分ですから、ちょっと都会が懐かしくなったらちょっと都会に戻ることができるじゃないですか、船で10分だったら、本当の離島じゃないですから、ですからこの興居島はものすごく団塊の世代が住みたい、農業もしたいというところだともものすごく可能性のあるところだって教えてもらったんです。ちょっと胸が張れることないですか。愛ランド里島構想も私が就任してからすぐ実現ってしたいですけど、行政がやる以上は失敗するわけにいかないですから、きちんと調べないといけない、計画を皆さんと立てないといけないということで島の人たちともいろいろ話させてもらいましたけれども、これはどれだけ外の人がやってくるかわからないですけど、島の人がそうなるを受け入れてもらわなければならないですから、このあたりが大事になるところだと思います。でも、定住というところでは興居島はすごく恵まれてる、全国の中でも恵まれてるし、可能性の高いところだと思います。

**【男性】** 遅がけからすいません、先ほどから団塊の世代の定住ですね、これを我々のグループもいろいろやっています。だけどやはり農地法のハードルが高いということなんです。大野課長もよく知っているとありますが、結局定住しても釣りと散歩だけじゃいかん、だから農家やりたいそのときにやはり5反以上ないといけない、こういうハードルがある、だから特区でも設けていただいて、松山市独自の島に対する特区を設けていただいて、国の許認可の問題ですけど、そこらあたりを門戸広げてもらいたい。団塊の連中に住みたいんだけどと言ったらその農業問題、もう一つは医療の問題です。救急艇をつくっていただいてありがたいんですが、これがおいそれと間に合わないんです。だから各島についても高速艇なりを救急艇に指定してもらえば、複合して利用できるんじゃないかなということを考えております。以上です。

**【市長】** はい、今特区のお話が出てまいりました。これ、こうやって行政と市民の方が意見交換する中で出てくる話だと思いますので、特区については持ち帰らせていただきたいと思います。そして、消防救急艇のことについては岡本課長。

【消防局総務課長】 はい、消防救急艇につきましては21年10月から運行を開始しまして、昨年1年間で島しょ部に出動した救急件数が308件、1日1件はないんですけど、かなり多くの患者さんを搬送しております。そのなかで興居島については35件ございました。先ほど市長も申しましたように、基準をどこに置くか、考え方なんですけど、救急隊員または救急救命士を消防救急艇に配置しております。救急救命士が現場に行く時間を短縮するというところに基準、重点を置きまして、まず患者、傷病者に対して応急処置をいかに早くできるか、苦痛を緩和する、救命、延命、命を守る、悪化を防止する応急処置をする形をまず早くとるという形で消防救急艇を運航しております。ですから、病院に到着する時間はかかるかもわかりませんが、救急救命士が行く時間は短縮できていると思っております。島しょ部の運行の到着時間平均入れましても市内で平均22, 221回、1年間に緊急出動ありますけど、その平均で7分30秒で現場に到着してますから、応急処置は早くなっていると思います。救急船に民間の船を指定できるかということなんですけど、これは資格をもった救命士が搭乗しないと応急処置ができませんので、指定というのはできません。ただし、従来から一般の漁船なり、遊漁船なりで三津浜の港とか高浜の港に搬送していただければそこに救急車が待機できる体制は従来から整えておりますので、そこらは傷病の判定、重症かどうかとか軽傷か中等症か、家族の方がこれなら自分の船で搬送できるというような場合は搬送していただければ、港で救急車が待機していることはできます。これは海上運送法とか、救急救命士の資格の件とかいろいろありますので、民間の一つの船を救急船への指定は今のところできないことになっておりますので、よろしくをお願いします。

【男性】 歴代の市長さんの中で、こうやってわざわざ興居島まで休みの日に来てくれて島民の声に耳を傾けてくれるような市長さん今までに一人もおりませんでした、最高やと思います。その市長さんにさっきのよそ者、若者、ばか者のことじゃないですけど、ばか者の意見として聞いてほしいんですけど、今まで意見だぶ出たと思うんですけど、最終的に何を望んだらかということ、興居島にぜひとも将来橋をつけてほしいという1点に尽きると思います。なぜかということ若い者がなかなか住みにくいんですよ、いいところなんですけど、やっぱりフェリーに制限される、夜8時以降は帰れないとか、そういった不便さがものすごくありまし

て、これは島に住んどうる者やないとわからんところあると思います。私も学校出でから松山とか大阪とかいろいろ仕事して帰ってきて、また改めてこの不便さを重々感じとる次第です。ですからこれからまだ若い若い市長さんが、頭の片隅にいつか興居島に橋をかけてやろうということを私は期待しております。よろしくお願ひします。

【市長】 私のほうからお答ををさせていただきます。2つの考え方があると思ひうんですね、私が橋を架ける上で必ず考えなければならぬのがストロー効果というのを考えなければなりません。小規模なところが大規模なところが橋で結ばれてしまうと大きな経済圏の方に人がすつと流れて行ってしまつてということがあるんですね。これはいろいろな意見があつていいと思ひうんです、民主主義国家だからいろいろな考えがあつていいと思ひうんですけど、私が橋をつくる上で心配なのはストロー現象というのが懸念される場所だと思ひいます。就任させていだけから特に中島、興居島で聞かせていただいたのが、船が、病院に行くのが高いんじやというお話をいただひておりましたので、ずつと就任当初から職員に言ひ続けまして、船の補助ができるようになりまして、来年度から。これは本当に大変な作業、職員も本当に大変だつたと思ひうんですけども、具体的にどうひいう船の補助ができるようになったか言ひていただけませんか。

【保健福祉政策課長】 先ほど市長が申しましたように、この愛ランド里島構想に絡みまして、保健福祉部としては島の方々に住み続けていただくために、島で生活していただく中で病気にかかつたときの不安というのがあるかと思ひまして、3つの事業を整えております。まず1点目は通院のために毎月2回目以降に病院に通われるために船に乗られた方、この方の帰りの運賃相当額を助成する事業をつくつております。また、この事業は中学生の子どもに付き添ひう保護者の方1名も同様な助成をしていこうという考えでおります。2つ目としては、現在母子手帳をお持ちの方あるいは4月1日以降母子手帳を交付される方については、出産までの妊婦健診14回、歯科検診1回、出産時の入院のための船に乗っていかれるための助成として16回分の往復の船の助成をするようにいたしてあります。3つ目として透析治療を受けられている方もおいでると聞ひてあります。こういった方々は直接命に関わることでございますので、週2回以上の通院をされて透析治療を受けておいでる方に対して、復路の半額助成、年間100回から百

数十回、患者さんの通院回数によって助成をしていくという、この帰りの半額というのは、既に船会社のほうで障がい者の半額助成を行っておりますので、それを除いた部分の助成をしていこうという3つの柱の事業をこの4月から行ってきたいと考えております。それで、興居島、本日たぶん夕刻、何地区かは保健所の職員が地区で説明会を開く、これも3月いっぱいにあるいは4月早い段階で進めて、各地区に参って説明会を行い事業を進めてまいりたい、妊婦につきましては4月1日から直ちに事業を開始、残り通院のための航路助成と透析患者の方の助成については各地区で今説明会をやっておりますので、その説明会が整い次第、5月1日から事業を開始したいと考えておりますのでよろしくお願いをいたします。

【男性】 私の妻がちょうど明日で島に引っ越してきて1年になるんで島のよさを聞いてみました。すると、市内に仕事で出かけて島に仕事から帰ってくる時にフェリーに乗るとちょっとした小旅行の気持ちになる、癒しの効果があると。あと、嫁さんが島に来てから、近所の人から「よう来てくれた、よう来てくれた、ありがとう」と200人くらいには言われた、すごく女性を宝物として扱ってくれる、子どもを近所の方が一緒に育ててくれる、見守ってくれる、すごく子どもから高齢者まで幸せに暮らせるところだという感想をもらってきました。私ごとなんですけど今年の8月に子どもが生まれまして、今日3月25日現在、同級生がおりません。あと6日なんですけど、あきらめずに待ってみたいと思うんですけど、教育面、健康面、保健面、交通面、高齢者のことそういうことが充実していったら、子どもから高齢者まで安心して住める島になっていけるんじゃないかなと思います。いま、環境面でいったら空き家とかを紹介する一元化した窓口があると新しく来る人が楽かなというところもあるし、島の中で雇用が増えると、仕事しながら島に住める、あと、市内で働く人にとってはフェリーの終電に合わせてもう少し夜遅くまでの運行、1便でも2便でもいいんで増えるとありがたい。興居島のよさをもう少しPRしてほしいというところもあるんで、市長お忙しいとは思いますが、ぜひとも島に移住してきてもらって、島のよさをその身で体感してもらって広告塔になってもらえたらと思います。お待ちしております。

【市長】 終電に合わせてと空き家紹介とか、空き家紹介はなかなか貸したがないというのがあるみたいです。

【市民部長】 興居島詳しいもんですから、ここで地域におけるまちづくりという話を話させてもらいたいと思います、今の問題も含めて。山間部、こういう離島もそうですけど、テーマが非常に切実であると、つまり、高齢化少子化ですね、人口流失、そういうことでだんだん人がいなくなる、さびれるというふうに悪循環でだんだんだんだん活性感がなくなっていく。そうしたときどうすればいいかという、行政にすべてしてくれというのも一つの方法です、もう一つが自分たちでやるというのがもう一つの方法、しかし行政も十分な補助金とかそういうのがなくなる、住民たちも町内会費とか自分たちの活動経費がなくなる、みんなが困ってくる。第3の道が行政と地域が連携するという取り組みが一つあります。それが地域におけるまちづくりでやってるんですけども、そこでいろいろな課題、例えば今おっしゃられたフェリーの終便はどうか、空き家対策はどうか、補助金がほしいとか、いろんな問題があります。船踊りだったらすごい群衆がいましたよね、20年ほど前、それがいない。それを解決するにはやはり皆さんが連携しないといけない、連携するっていうのはばらばらで皆さんいろんな意見はいいんですけど、一つの意見にまとめるというのが非常に大切かと思います。まとまったときには行政と連携、例えば、みんながばらばらでもの言うんじゃないで、みんながまとまったら、例えば今地域におけるまちづくりでやっているところはですね、行政が窓口を一つにして話し合うシステムがあるわけです。例えば今のフェリーの終便、せめてこれを9時にしてくれといったときに、みんながまとまって意見を言わないと物事は動かないと思うんです。例えば個人で船会社に何とかしてくれ言うてもそれはだめです、経営の問題もあるんで。ただ、みんながまとまったらもしかしたら動くかもわかりませんね、そういう形のを、例えば行政はノウハウとかアイデア、法律的知識なんかを皆さんにお伝えする、皆さんがまちづくりなんかで活動するんであれば、補助金という形も出させていただきます。そのためには公平公正な仕組みじゃないといかんで、例えば決算なんか不明瞭では困りますし、きちんと規約をつくっていただくといかん、そういったことができますと補助金なんか出させていただきます、皆さんがまちづくりでこういったことやりたいんだと計画出されれば、計画の活動の一部を出させていただきます。例えば今の船踊りの活動経費が少ないんで困っているときに、そうしたまちづくり協議会に入った補助金を、みんなが何が一番優先順位が高い

かということを決めていくと、そこに対してまちづくり協議会の活動経費、行政が一定の基準を出させていただいてそれをどういうふうに形つくっていくか、こういうふうに過疎化になるとみんなが運命共同体ですね、全体の問題課題を把握してやっていくと、そういう問題が一気には無理ですけど、一つ一つ解決していくかもわからんと思います。だから今言った空き家の部屋があったときには、このあたり本当にたくさんの空き家があります、そこに本当に帰ってくる余地があるんだったら、例えばOBがUターンという形で帰ってくる方法も一つ、Iターンという形でこの空き家貸しますというのも全体の中でアイデア出すと行政も例えばそれは企画がやるんだとか住宅課がやるのか市民部がやるんだとかいろんな選択肢がありますんで、そういう意見を交わしながら一つの解決方法を見出していく、そのような形でお年寄りも若い人もやっていくと一定のまちづくりができていくと思います。ちょっと長くなりましたけれど、地域におけるまちづくりというのは皆さん方と行政が連携すると1足す1が3とか4になる、これは市長の公約の一番にありますので、ぜひ皆さんも取り組んでいただきたいと思います。ちょっと長くなりましてごめんなさい。

【市長】 今三好部長が申しましたのは、まちづくり協議会というものですけれど、松山市41地区の中で今10できてます、協議会が。そして準備会というのでそれに続くものが2つあります、合計12のところ動きがあって、まだ、ほかにもありますので、ぜひ皆さんもまちづくり協議会考えていただけたらと思います。

【産業政策課長】 雇用についてお話をさせていただきます。松山市として48社くらいの企業を誘致して約3,900人余りの新規雇用をつくりました。興居島はどうかという話ですが、実はいい例が中島で、実はそこに適応したような基準を下げた補助要綱をつくりました。あそこでは幼稚園の廃校を使ってジュース工場をつくりました。そこに雇用が生まれます、そこに設備投資がされます。そういうものに対して松山市も補助金を出しておりますので、あくまでそういうものをつくるための支援というものにはなりますけれど、そういうことを皆さんご検討いただければ、こちらとしても補助制度ありますので、ご協力できるところはさせていただきますと思います。

【市長】 「松山市離島及び辺地企業立地促進要綱」というのがありまして、一

番に対象地区由良・泊となっております、そういう制度もつくっておりますのでお願いします。

【男性】 一言だけ、テーマにある笑顔あふれる興居島なんですけど、子どもの笑顔が、子どもの笑い声が増えたら、大人も笑顔あふれるだろうし、子どもが増えるようなまちづくりを進めていきたいんで、ご協力をお願いします。

【男性】 分館運営についてお伺いします。船越地区は戸数22、人数45の地区です。以前分館は県道沿いに建築されていましたが、道路拡幅のため移転を余儀なくされ、現在、県の緑地公園に建築されております。当地区でも年々人口減少にあり、私初めほとんどの方の家が年金受給者です。年々運営は非常に厳しくなっております。分館は自主運営が原則ですが、船越分館の維持だけでも二十数万を要します。いま、公園管理手当や町費を投入することによって何とか維持しております。それでももう今限界でやがて維持できなくなるのではないかと危惧しております。敬老の日が来ても毎年はお祝いをしてやれないような状態で、とても心苦しく思っております。どうか現状をご理解の上よろしく検討をお願いします。

【男性】 分館は松山市から一つの援助もございません。維持管理していくために船越が二十数万、ここの南分館は35万くらいかかります。去年の4月から1.5から2.5に変わりましたが、一応の設備はできました。合併槽のトイレのお金も高いし、何をやるにしても25パーセントになって、まだ新しいので利用もたびたびあります。今日も無料で貸しております。そういったことで収入がないので、やはり企業もないので、寄付金など援助してくれるものもないので、こういった面には特例として施設課のほうでひとつご検討願えたら、大変分館を預かる人間として非常に助かります。そういったことで声を上げればしてくれるのなら、全員で施設課のほうに行ってください。大変無理なことと思いますが、いろいろなことを検討していただければ、分館を預かるものとして大変助かるとお思いますので、よろしくお願いたします。

【市長】 青木課長ですかね、公民館本館が41で分館が332ある。分館運営のことについて、お願いします。

【生涯学習政策課長】 分館の建て替えとか、あるいは修理とか備品を買うとかいう分については25パーセントのご負担はいただかないといけないんですけど、

十分対応できるかと思えます。ただ、運営につきましては、332も松山市ございますので、原則として自主的に運営していただいているのが現状でございます。今後、こういった形でそれができるか難しい面があると思えますけれど、できるだけそれぞれの分館で対応をお願いしたいということでございます。

【男性】 分館維持運営するのに一番お金がかかるのが、合併槽の汲み取り代です。うちの町内が平均45万予算が、2年に1回20万ほどいるんですね。だから町内会費食いつぶして、それで。なんやったら市にお返しして使うときだけ料金払ったほうが、町内会としては運営しやすいんですね、そこら辺をちょっと考慮していただきたいと思えます。

【市長】 先ほどお話の中で企業もないのというお話もありましたけど、これも持ち帰らせていただいて検討させていただいたらと思えます。最後に松山の財政のことについてお話させていただいて、締めさせていただきたいと思えます。あまり長くないようにいたします。中四国の中では比較的松山市というのは財政状況いいほうだといわれております。そういった松山市の状況なんですけど、1年に出ていくお金を歳出といいます。円グラフを書いていただくとわかりやすいんですけど、この中で一番大きなウェイトを占めているのが、民生費、福祉にかかるお金です。これが一番大きなウェイトを占めています、40パーセントを占めています。財政状況がいい松山市でも1年でこの民生費が50億増えた、福祉にかかるお金が。代表的なのが、生活保護費、皆さんもよく聞かれると思えますけど、生活保護費が松山市で1年間で20億増えたんです。こんな状況なんです。これは松山だけ特殊ではなくて全国の地方自治体がこういう状況です。今、国は1,000兆円の借金を抱えているといわれています。ここまで来るまでに誰か止めるやつはおらんかったんかと思えます、1,000兆円です。国から我々のような地方公共団体に地方交付税交付金とか、国庫支出金といった形でお金が回ってくるんですけども、大元が1,000兆円の借金抱えてるんだったら、こちらに回ってくるお金が増えるというのは考えにくいですよ。ということは福祉にかかるお金が50億増えたら、どっかで50億絞らないとバランスがとれない、20億生活保護費が増えたら、どこかで20億絞らないと、どこかでお金つくらないとバランスがとれない、どんどんどんどん下り坂になっていく。こういうタウンミーティング、今日が20カ所目だと申しましたけど、皆さんから要



望を聞いて、私も人間ですから、できたら、それやりましょう、あれやりましょう、これやりましょう言ったほうが楽なんです。でもやはりそれはよくよく考えてやらないと、そこで言えたら楽ですよ、市長の人気取りしようと思ったらやります、やります言ったほうが楽です。でもよくよく考えてやらないと、一つ間違えると将来の子どもや孫にツケを残す話になってしまう。だから何もやりませんということではありません、皆さんのニーズをとらえさせていただいて、船の補助をさせていただくことにいたしました、やっぱり選択と集中、今何をやらなければならないのか、優先順位として1番は何で、2番は何で、3番は何、こういう優先順位をつけること、そのためにはこのように皆さんのもとに出向いて行って、どういう皆様が要望をもっていらっしゃるのか、ニーズをしっかりと把握させていただくことが大事だと思ってこのタウンミーティングをやらせていただいているところでございます。

締めさせていただく形になりますけれど、今地方公共団体どこもこういう厳しい財政状況です。国はもっと厳しい状況ではありますけれど、やはりこれからもひと手間ふた手間といいたいでしょうか、これからも皆さんのところに出向いていってお声を聞いて、それを市政に反映していくというのを繰り返していきたいと思っておりますので、どうぞ皆様、今日ちょっと手挙げにくかった、もうちょっと言いたかったのにといい方は、市長へ、松山市役所へはがきですとか、また、メールで声を届けるという仕組みもありますので、どうぞこれからも声を上げていただくということが大事、前向きに建設的にやっていくことが大事だと思っておりますので、どうぞ声を寄せていただけたらと思っております。浄化槽の話も教えていただけてわかるという点もありますので、これからもまたいろいろと教えていただけたらと思っております。今日本当にお休みのところでしたけど、このようにたくさんの方が集まっていたいただきましてありがとうございました。これからも松山市政にしっかりと反映していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

——了——